

メッセージアウトライン

2014年11月2日（日）

聖書箇所：マタイ20：1～16

タイトル：「ぶどう園の主人に会いましたか」

テーマ：「あとの者が先になり、先の者があとになるものです」というイエスの言葉が、天の御国についてのたとえ話の前後で繰り返されている。ぶどう園の主人にたとえられた天の御国とはいかなるものか。また、「あとの者が先になり、先の者があとになるとはどのような意味だろうか。

## 1) はじめに

たとえ話はすべてのことを網羅するわけではないが、神のみ旨のエッセンスを伝えている。

ぶどう園の主人のたとえの中で、出てくる言葉は何をたとえているか。

- ・ぶどう園——天の御国
- ・主人——父なる神
- ・1デナリ——永遠のいのち
- ・労務者——すべての人間
- ・雇われた人——天の御国に入れる人

\*このたとえの中に見る「恵み」を3つの点から考えてみよう。

- ①ぶどう園の主人の側から
- ②雇われた人の側から
- ③「あとの者が先になり、先の者があとになる」ってどういう意味？

## 2) 本論

### ①ぶどう園の主人

- ・労務者を雇いに朝早く出かけたのは、ぶどう園の主人。
- ・主人は、朝早く、9時ごろ、12時頃、3時頃、5時頃と何度も労務者をさがして雇い、ぶどう園に送った。
- ・労働時間の長さや質にかかわらず、雇った人全員に1デナリの賃金を約束した。
- ・主人の心——誰も仕事にあぶれることなく、1デナリの約束の賃金を受け取ってほしい。

### ②雇われた人

\*雇われた人の心の中

- ・雇われたのは自分の努力の結果（朝早くから仕事をさがしに行った熱意？）、自分の力で仕事にありついたと考える勘違い。
  - ・賃金をもらえるのは自分の労働に対する正当な報酬だという思い。
  - ・あとから雇われた人たちは、本当に1デナリ払ってもらえるか心配。
- \*それぞれの時間に雇われた人たちが与えられていた恵み
- ・朝早く、あるいは9時頃雇われた人——重労働ではあっても働けば1デナリ必ずもらえる希望と安心感に満ちて、働いたと思われる。

- ・ 12時あるいは3時に雇われた人たちは、1デナリの約束に安堵したことだろう。
- ・ 5時に雇われた人は、自分の運の悪さを嘆き、養うべき家族のことなど考えて絶望的な気持ちになっていたかも。
- ・ 早く雇われた人は、ぶどう園での労働時間は長かったが、希望と安心感を持って働いた。
- ・ あとから雇われた人たちは、ぶどう園での労働時間は短かったかもしれないが、仕事のない不安で心がいっぱいだった。

\* 報酬に対する不満

- ・ 朝早くから働いた人は、もらった賃金が不満だった。
- ・ 主人は、最後に来た者から順に、最初に来た者に至るまで約束した1デナリずつを払った。この賃金を朝早くから働いた報酬と考えると不公平な話。しかし、主人が労務者をさがし、声をかけて雇い、1デナリの賃金を約束したのだから、主人は何もまちがっているわけではない。
- ・ ぶどう園に雇われた人たちに支払われた1デナリは、報酬ではなく恵み。労働の対価だと考えると、不満も起きるだろう。

③ 「あとの者が先になり、、、」とはどういう意味？

- \* 全体の文脈からすれば、何もかも捨ててイエスに従った弟子たちはどんな報いを受けるのか、というペテロの問いにイエスが答えておられる場面である。ペテロに対してイエスは、メシア的王国が到来したときの弟子たちの扱いを述べておられる。そこに至るまでにユダヤ人（先の者）ではなく、あとの者（異邦人）が先になるよとイエスは言っておられるのだ。

3) 結論

\* 天の御国はいかなるものか。

- ・ 神ご自身が私たちがさがしだして、約束のものを与えて下さる所。
- ・ そこに入るのは報酬ではなく恵みによる。
- ・ 人生の早い時期にその約束を手にする人もいるし、人生の最後に近い時にその約束を手にする人もいる。
- ・ 神に一番近いと思っていたユダヤ人はあとになり、神の救いからは程遠いと思われていた異邦人がかえって、先に恵みを受けることとなった。
- ・ 歴史的に見れば、アブラハムは朝早くから雇われた人であり、12使徒は午後3時頃、異邦人は午後5時頃に雇われたと考えられるだろう。
- ・ 神は今も、ご自分の御国に人々を招くために、人々に声をかけておられる。あなたは、  
あなたをさがしておられるぶどう園の主人に会いましたか。雇われてぶどう園で働く決心をしましたか。